



「あきたこまちR」 反対活動が消費者に どう受け止められているのか

第61回アイソープ・放射線研究発表会
「イオンビーム育種で生まれたカドミウム
低吸収米について事実を知ろう」
場所: 日本科学未来館 未来館ホールA
日時: 2024.7.4(木) 14:25~16:25

東都生活協同組合
商品部 吉澤正義

01-反対運動

■ OKシードプロジェクトを中心とした反対運動

■ OKシードプロジェクト

- ゲノム編集トマトなどゲノム編集種苗・食品が出てくることに懸念を感じた市民(?)が立ち上げた共同プロジェクト。
- OKシードマークはゲノム編集されていないタネに付けるマーク
- OKシードマークを使用申請している団体・個人は195
 - 有機農業関連団体や農園が多い
- 事務局長・印鑰智哉氏



共同代表・久保田裕子氏(日本有機農業研究会、有機農業推進協会)

顧問: 山田正彦氏(元農林水産大臣)、

天笠啓祐氏(日本消費者連盟、遺伝子組み換え食品いらない!CP)

河田昌東氏(遺伝子組換え食品を考える中部の会)

01-反対運動

■ 「あきたこまち」をどう守る！ 東京集会

■ 2024年3月29日(金)14時～ 於:連合会館

- 主催:「あきたこまちR」問題を考える実行委員会
- プログラム

1. 問題提起

- なぜ「あきたこまちR」が出てきたのか？ 印鑰智哉氏
- 重イオンビーム育種とは？ 河田昌東氏
- 食品表示問題 久保田裕子氏
- あきたこまちRって何？ 谷口吉光 秋田県立大学教授
- 秋田の農家から 相馬喜久男氏(秋田県有機農業推進協議会会長)

2. 議論

3. 行動提起



01-反対運動

■ 誰にどのように伝わるのか

■ 対象

- 遺伝子組換え食品に否定的な生産者(団体)・消費者(団体)
- ゲノム編集食品に否定的な生産者(団体)・消費者(団体)
- オーガニックなどに関心がある消費者(団体)
- 科学的な評価ができないメディア、教育関係者
- 国や企業に対して信頼がない者

■ どのように

- Youtubeなどのネット情報
- 市民講座や生協などで実施している学習会
- 子どもを介したネットワーク
- 反対意見や訂正情報をいいにくい環境・ネットワーク



01-反対運動

■ 放射線育種米がやってくる

■ 民間稲作研究所

とちぎ有機の会第1回市民講座

開催:2023年7月26日

講師:OKシードプロジェクト 印鑰智哉氏

1.5万回視聴、



■ 『放射線育種米』

■ 豊受自然農(静岡県)

2023年5月7日アップ

4,193回視聴、220いいね

印鑰智哉氏のペーパー読み上げる



01-反対運動

■ 知らされずに、広がりを見せる放射線育種米の恐怖

■ うむ農園自然栽培チャンネル

開催:2023年8月16日

11,681回視聴、971いいね

印鑰智哉氏の講演を参考に、自身が出張して学習会に出向くとのこと



■ 米が危ない!「放射線米」を知らずに 食べることになるかもしれません

■ 人はたべものでできている

2023年9月19日アップ

29,848回視聴、1,367いいね

印鑰智哉氏、河田昌東氏の情報



02-組合員の声

■ K.A.さん(60歳・目黒区中央町)

■ 登録 新潟コシヒカリ弥彦わかば5kgの苗・種はどのようなものを使っているのですか。自家製なのですか。JAから買っているのですか。放射線育成種なのですか。無農薬であっても放射線育成種であれば不安です。

- なんだかわからないけど不安
- 情報も中途半端にしか伝わっていない



02-組合員の声

■ Y.H.さん(56歳・町田市玉川学園)

- 最近、放射線育種米の情報が取りざたされています。東都生協の安全性への取り組みを調べようとHPを見ましたが、そのあたりの情報は得られませんでした。東都生協の米は本当に安全なのかが知りたいです。安全な種・苗を使っているのか？

■ N.T.さん(53歳・目黒区駒場)

- 放射線育種米についての東都生協の見解を教えてください。全国的に広まる可能性があります。東都生協はどのように対応する予定ですか？
 - *放射線育種米は健康に問題ないと考えているのか
 - *販売する予定はあるのか
 - *その場合には表示はするのか

02-組合員の声

■ A.F.さん(68歳・北区田端新町)

- ありがたく無洗米金芽米長野あきたこまちか無洗米金芽米長野コシヒカリを頂いています。
- 最近あきたこまちRを知って、大丈夫かなあと思って調べていたら、以前からコシヒカリ環1号っていうのがあったようです。詳しいことは読んでもよくわからないのですが、あきたこまちはすべてRに変わり、どうしようもないのでしょうか。東都生協さんとしての意見も聞きたいと思い、問い合わせました。よろしくお願いいたします。

02-組合員の声

■ T.M.さん(56歳・品川区荏原)

- お米は長年生協で購入しています。
- 私もよく認識していませんでしたが、「あきたこまちR」とは、重イオンビームという放射線を当てて、遺伝子の1塩基を破壊した「低カドミウム米」を今後の日本の主要な品種にしていこうという方針を農水省が2018年に決定し、秋田県では2025年から放射線育種「コシヒカリ環1号」の後代交配種「あきたこまちR」に全量転換させる計画をしているようです。しかも表示もないようです。
- 東都生協も秋田県より納入していると思います。そこで「あきたこまちR」について、東都生協としてはどのようにお考えでしょうか？
- 農水省や秋田県はどうも国民の健康を第1に考えてはいないように思われますが、東都生協としてのお考えを知りたいです。よろしくお願いいたします。

03-東都生協の見解と対応

■ 「あきたこまちR」に対する東都生協の見解と対応

1. 突然変異育種米を利用した後代品種「あきたこまちR」の安全性については、交配など従来からおこなわれている育種方法で育成された品種との差はないと考えられます。また、すでに「レイメイ」などの突然変異育種米を利用した後代品種である「はえぬき（2021年作付面積6位）」や「つや姫（同12位）」などを食生活に取り入れており、それら品種と「あきたこまちR」に安全性の差異はないと考えています。
2. 「コシヒカリ環1号」も「あきたこまちR」も放射能を帯びておらず、放射線を出すこともありません。一方、ヒトに対する発がん性のある重金属であるカドミウムをほとんど吸収せず、栽培方法によっては、同じく発がん性のある無機ヒ素の吸収を抑制することができますので、私たち日本人の食の安全性が高まります。

03-東都生協の見解と対応

■ 「あきたこまちR」に対する東都生協の見解と対応

3. 今後、日本の各地で栽培できるよう様々な品種でカドミウム吸収抑制米の品種登録がすすみます。現在、うるち米、もち米、酒造用を含め24のカドミウム吸収抑制米が開発され、品種登録の出願がされています。日本国民の安全はもちろんですが、輸出を考えた場合、諸外国の基準を超過しないことも必要です。
4. 秋田県が供給する種粳は全量「あきたこまちR」に切り替わる予定ですが、従来の「あきたこまち」を栽培したいという生産者の意思も尊重します。しかしながら、東都生協として、そのようなお米や米加工品を「あきたこまちRではありません」などの表示をして販売することは、安全性に対する組合員の誤認を招きますので考えておりません。

04-生産者の反応

■ 秋田県大潟村で有機栽培をしているK.Kさん

- 東都生協の見解は理解したが、有機農業団体が反対している中で「あきたこまちR」を栽培するとは言えない環境にあります。
- 今のところ自家採種をしているので当面は凌げるとは思いますが、その先は不明です。
- 東都生協が「あきたこまちRではありません」という表示をしないことについては承知しました。

■ 茨城県で特裁レベルで米を生産しているA.Sさん

- 今日初めて「あきたこまちR」の情報を知りました。事前に何も聞いていなければ、秋田の生産者のことを考えて反対をしたと思う。

05-組合員への回答

いつも東都生協の商品をご利用いただきありがとうございます。

「あきたこまちR」を放射線、あるいは放射能を帯びたお米ということで心配されているとしたら、その点に心配はなく、従来の「あきたこまち」同様に食べることができるお米です。むしろ、カドミウムによる健康リスクが減るというメリットもあります。

ネット上でカドミウム吸収低減米である「コシヒカリ環1号」や「あきたこまちR」に関して、「放射線育種米」や「放射線米」として、あたかもそのお米が放射能を帯びているかのように不安を煽る情報が拡散しています。

しかし、放射線を照射したのは放射線育種米として登録した「コシヒカリ環1号」の7代前の「コシヒカリ」になります。「コシヒカリ環1号」が放射能を帯びているわけではありません。その「コシヒカリ環1号」を親に「あきたこまち」と交配し、カドミウムの吸収に関わる特定の遺伝子を欠損させた後、7回の戻し交配で、この遺伝子以外の変化を修正しています。食味や収量に差はなく、当然、放射線を出すわけではありません。

05-組合員への回答

ガンマ線やベータ線による放射線育種は1950年代からおこなわれておりますし、イオンビームにより効率的に品種改良ができるようになりました。さらに、自然界でも宇宙線などの放射線によって遺伝子変異は起こっており、柑橘類の「枝がわり」など、品種の改変も普通に起こっています。

日本は、銅や亜鉛の鉱山が各地にありましたが、採掘時に重金属であるカドミウムを環境に排出していました。火山国ということも土壌のカドミウムを比較的高いレベルにします。高濃度でカドミウムが蓄積した川の流域で栽培された米や獲れた魚を食べた住民は健康被害を受けます。代表的な集団発症が「イタイイタイ病」です。また、カドミウムは国際がん研究機関 (IARC) で、グループ1の「ヒトに対して発がん性がある」物質に指定されています。摂取しなければいけないほど良いという物質になるのです。

日本人は米を主食としますので玄米には基準があります。玄米中のカドミウムは0.4mg/1kg未満でなければならないとされています。0.4mg/1kg以上1.0mg/1kg未満のものは国が買い上げ、工業用の糊などとして使われています。それを超えるものは処分され、田んぼの土も入れ替えます(客土)。東都生協でも収穫間近に玄米を送ってもらい、カドミウムの自主検査をしています。

05-組合員への回答

放射線もがんの要因ですが、このお米は放射能を帯びておらず、同じがんの要因であるカドミウムをほとんど含まないのです。このようにカドミウムの低減は、日本国民全体のリスクを減らすものであり、これまでも大学や国の研究機関で吸収しない栽培技術開発や、品種改良がおこなわれてきました。この品種改良をおこなったもの国の機関である農研機構で、実家が秋田県で稲作農家をしていた方を中心としたチームでした（秋田県はカドミウムが比較的高い）。カドミウム吸収低減米ができれば、生産者もその年ごとの検査結果におびえることなくお米の生産をすることができます。

反対派は「カドミウムが高い地域だけで栽培すればよい」と言いますが、そのようにすればその地域を避ける人が出てきます。つまり、風評被害をつくりだすことになります。カドミウムはもともと低い地域で栽培することも、さらにカドミウムを低減しますので日本人全体にとってはメリットとなります。よって秋田県では全県で推奨する判断をしたのは当然のことと考えます。

05-組合員への回答

カドミウム低減(=国民の健康)への研究者の想いや長年の研究は、日本人の健康被害を考えてのものであるし、その取り組みは大変なものだったと思います。最後に質問にお答えします。

Q.放射線育種米は健康に問題ないと考えているか。

A.放射線の問題はなく、摂取するカドミウムが減るので健康への影響はむしろ好影響です。

Q.販売する予定はあるか。その場合は表示をするのか。

A.秋田県が全県栽培を決めたとしたら、産直産地がありますので扱うことになります。表示は不要と考えています。

今後、「コシヒカリ環1号」を交配親として各地に合った品種のカドミウム低減米が作られていくと思います。「放射線を当てたお米が表示もされずに売られるようになる」という情報の伝達は不安を煽るだけですので、同じような不安を抱えていらっしゃる人がいれば教えてあげていただきたいと思います。

これからも東都生協の商品をご利用いただきますようお願いいたします。

THANK
YOU!

